

（1）売上収益

当第 3 四半期の売上収益は、前年同期比 117 億円（6.2%）増加の 2,006 億円となりました。

長期収載品は競合品や後発品使用促進策の影響を受けて減収となり、主力製品である抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、前年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、2017 年 9 月に効能追加された胃がん等のがん種へ使用が拡大しているものの、2017 年 2 月より薬価が 50%引き下げられた影響などにより、前年同期比 136 億円（16.5%）減少の 690 億円となりました。

その他の主要新製品においては、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」、2 型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」、多発性骨髄腫治療剤「カイトロリス点滴静注用」、血液透析化の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」等が堅調に推移いたしました。

また、ロイヤルティ・その他の売上収益は、ブリストル・マイヤーズ・スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入が増加したこと等により、前年同期比 189 億円（86.7%）増加の 406 億円となりました。

（2）営業利益

営業利益は、前年同期比 11 億円（2.1%）減少の 522 億円となりました。

費用面では、売上原価は前年同期とほぼ同額の 502 億円となりましたが、研究開発費は、「オプジーボ点滴静注」関連費用が増加したことにより前年同期比 94 億円（24.1%）増加の 484 億円、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、営業経費等の増加により前年同期比 43 億円（9.6%）増加の 495 億円となったことにより、営業利益は、前年同期比 11 億円の減益となりました。

（3）税引前四半期利益

金融収益が前年同期比 2 億円増、金融費用が前年同期とほぼ同額となったことから税引前四半期利益は前年同期比 9 億円減の 553 億円となりました。

（4）親会社所有者に帰属する四半期利益

親会社所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比 10 億円（2.4%）減少し、414 億円となりました。

平成30年3月期の業績予想（連結）について (決算短信4ページ)

売上収益については、主力製品の「オブジーボ点滴静注」が、効能追加により、腎細胞がん、頭頸部がん、胃がん等へ使用が拡大していることにより、前回発表予想を上回る見込みであること、及び第3四半期において ブリストル・マイヤーズ・スクイブ社への ONO-4578 導出に伴う契約一時金の一部を売上計上したことから、平成29年11月6日に公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。

なお、費用面につきましては、売上の増額修正に伴い、売上原価の増加を見込んでおりますが、研究開発費、販売費及び一般管理費については、前回発表予想から変更しておりません。

修正内容は決算短信の4ページに記載しておりますのでご覧ください。

(1) 業績予想の修正

連結業績予想の数値につきましては、

売上収益は、2,540億円から60億円上方修正し、2,600億円

営業利益は、500億円から45億円上方修正し、545億円

税引前利益は、530億円から45億円上方修正し、575億円

親会社の所有者に帰属する当期利益は、

395億円から35億円上方修正し、430億円に修正いたしました。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり20円とさせていただく予定で、現状において変更はございません。

主な製品の進捗状況

■ オブジーボ点滴静注

29年4-12月の累計売上は前年同期間比136億円(▲16.5%)減の690億円ではありましたが数量ベースでは約70%増でした。

昨年2月に上市されたキイトルーダ(メラノーマ・非小細胞肺癌)および最適使用推進ガイドラインの影響から、非小細胞肺癌における新規使用患者数は減少傾向にありますが、非小細胞肺癌領域においても依然として高いシェアを維持するとともに、腎細胞がん、頭頸部がん領域でも新規処方患者数が増えており、4月~12月の推計使用患者数は腎細胞がんが約1,700人、頭頸部がんが約1,900人となりました。また、胃がんについても昨年9月に承認取得時に想定していましたが今期の処方患者数2,300人に対し、12月末時点で約2,000人と想定を上回る結果となりました(10月末で約900人、11月600人程度、12月600人程度)。

今後の見通しについては不透明な部分がございますが、癌腫毎にプラス要因とマイナス要因を推察致しますと、薬価改定の影響を含めて **890 億円程度**になると見込み、今回売上予想を修正させていただきました。

■グラクティブ錠

第3四半期のグラクティブ錠の売上は前年同期比 **4 億円 (▲1.6%) 減の 223 億円**と、通期予想の **295 億円 (対前期比 0.4%)** に対してやや進捗が遅れています。(通期目標に対する進捗は **75.6%**)

DPP4 阻害薬市場 (薬価ベース) は、前年同期比 **3.3%増**で推移していますが、DPP4 阻害剤の配合剤や SGLT 阻害剤など糖尿病治療薬全体での競争が激化しておりますが、通期計画である **295 億円**に向けて取り組んでいます。

■オレンシア皮下注

第3四半期のオレンシア SC の売上は前年同期比 **22 億円 (25.6%) 増の 109 億円**と堅調に推移しています。1st バイオとして処方頂く症例が増え、薬剤に対する評価はこれまで以上に高まっており、通期予想の前年比 **29 億円 (25%) 増の 145 億円**達成に向け順調に推移しております。

■リカルボン錠

第3四半期のリカルボン錠の売上は前年同期比 **2 億円 (▲1.9%) 減の 85 億円**となりました。骨粗鬆症領域の競争はますます激化しており厳しい環境ではありますが、ほぼ計画線で推移しており、通期予想の前年比 **3 億円 (▲2.6%) 減の 110 億円**に変更はございません。

なお、**50mg 錠**と **1mg 錠**の内訳については、**50mg** が **83 億円**、**1mg 錠**が **2 億円**となっています。

■フォシーガ錠

第3四半期のフォシーガ錠の売上は前年同期比 **27 億円 (47.0%) 増の 85 億円**となりました。想定以上に堅調に推移していることから、第2四半期終了時点で**通期予想を前年比 32 億円 (40.9%) 増の 100 億円から 110 億円へ修正**しましたが、修正目標に対しても順調に推移しています。

■リバスタッチパッチ

第3四半期のリバスタッチパッチの売上は前年同期比 **2 億円 (3.2%) 増の 70 億円**となりました。通期予想の前年比 **11 億円 (12.9%) 増の 100 億円**に対して進捗が遅れていますが、新規使用患者数の拡大を図ることにより、通期計画の **100 億円**を達成していきたいと思っております。

■イメンドカプセル／プロイメンド点滴静注用

第3四半期のイメンド／プロイメンドの売上は前年同期比2億円（2.4%）増の78億円となりました。堅調に推移しており、通期予想の前年比1億円（1.2%）増の100億円に変更はございません。

■カiproリス点滴静注用

第3四半期のカiproリスの売上は前年同期比34億円（325.7%）増の45億円となりました。ほぼ予定通りの進捗であり、通期予想は前年比40億円増の60億円から変更はございません。

■オノアクト

第3四半期のオノアクトの売上は前年同期比2億円（3.5%）増の46億円となりました。ほぼ計画線で推移しており、通期予想の前年比3億円（4.8%）増の60億円に変更はございません。

■パーサビブ静注透析用

第3四半期のパーサビブ（2017年2月発売）の売上は25億円となりました。通期予想の30億円に対して堅調に推移しています。

既に全透析施設の76%を超える採用軒数となり、透析市場から見ると患者数の83%をカバーする施設で採用されています。処方例数は、12月末で22,000例（内、新規8,000例）を超え、この市場でのシェアは25%を超えてきました。既存薬からの切り替え、および新規患者さんへの処方が広がっております。

■長期収載品

オパルモン等の長期収載品については、引き続きジェネリックの影響を受け、それぞれ20%前後の減収となりました。